

第2章
農林水産業
～食と緑の創造県いわて～

農業就業人口及び漁業就業者数の減少と高齢化が進行

■ 農業就業人口及び漁業就業者数の減少と高齢化が進行

平成22年（2010年）世界農林業センサスによると、本県の農業就業人口は89,993人で、平成17年（2005年）と比べると24,016人（21.1%）減少した一方、就業人口における65歳以上の割合が63.5%と、3.0ポイント上昇しています（図1）。

また、平成20年（2008年）漁業センサスによると、本県の漁業就業者数は9,948人で、平成15年（2003年）と比べると524人（5.0%）減少した一方、65歳以上の就業者の割合が37.3%と、5.4ポイント上昇しています。これらのことから、農業就業者、漁業就業者とも、高齢化が進行していることがわかります（図2）。

なお、平成22年の本県における林業経営体数は8,795経営体で、平成17年と比べ20.7%減少しています（図3）。

■ 農業経営体の経営耕地の大規模化が進む

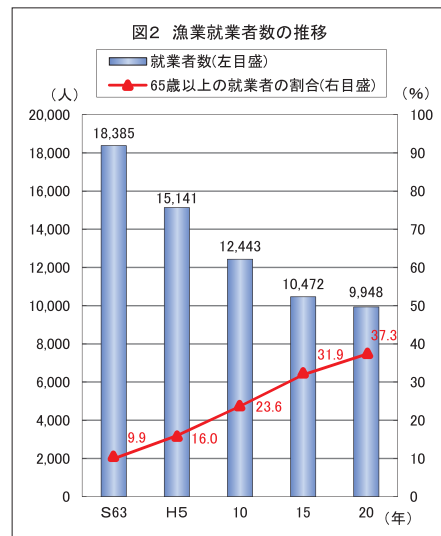
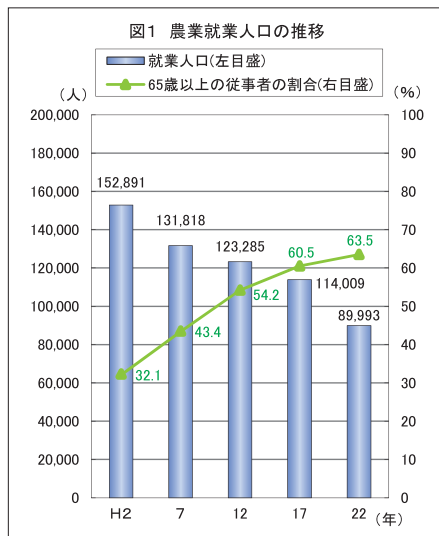
本県の農業経営体を経営耕地の面積別に見ると、平成22年（2010年）は0.5～1.0haが16,515経営体と、最も多くなっています。また、平成17年（2005年）と比べ、0.3～0.5haから5.0～10.0haまでは全て減少している一方、0.3ha未満と10.0～20.0ha以上は増加していることから、農業経営体の経営耕地の大規模化が進んでいることがわかります（図4）。

■ 販売金額1,000万円以上の農業経営体、漁業経営体の割合がともに上昇

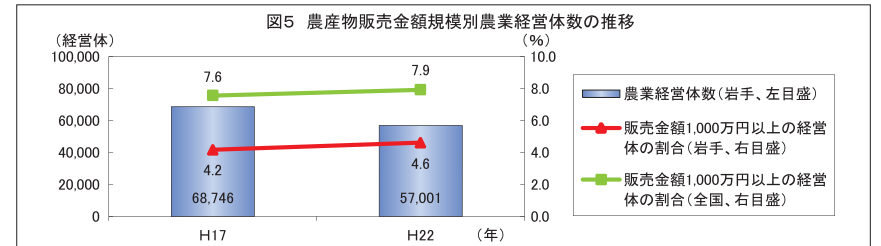
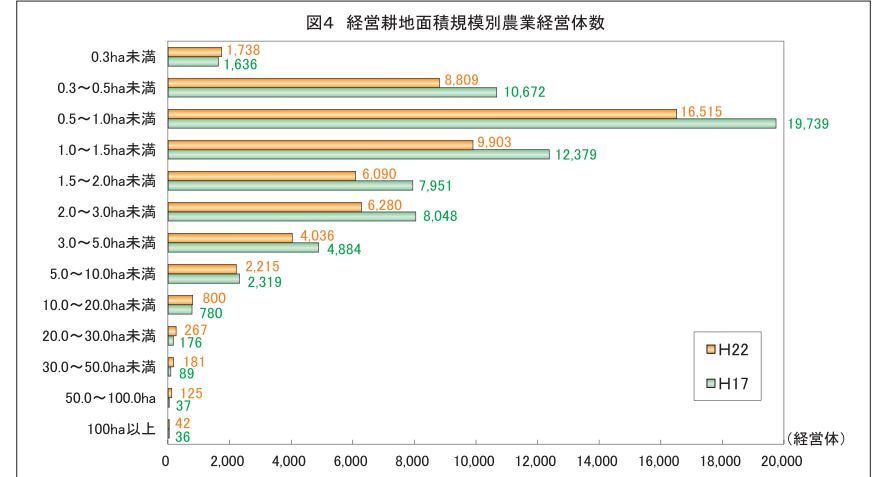
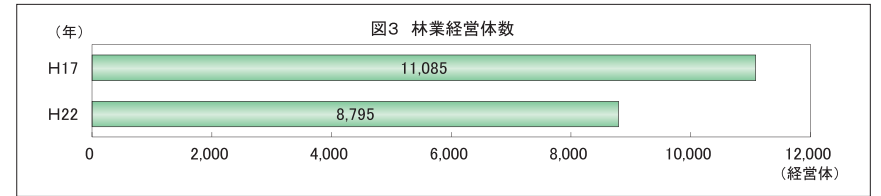
本県の農業経営体を農産物の販売金額別にみると、平成22年（2010年）は1,000万円以上の割合が4.6%と、平成17年（2005年）と比べ0.4ポイント上昇しています（図5）。

また、漁獲物・収獲物の販売金額が1,000万円以上の漁業経営体の割合は、平成20年（2008年）で12.4%と、平成15年（2003年）と比べ2.1ポイント上昇しています。

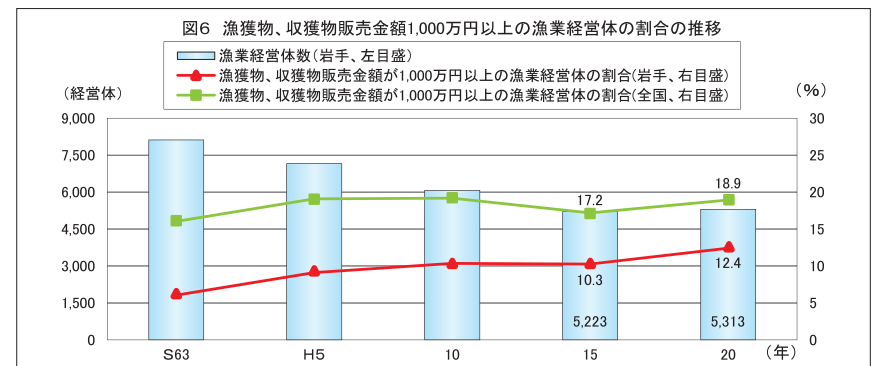
しかし、全国平均と比べると、農業経営体、漁業経営体とも販売金額は低い水準にあります（図6）。



資料：農林水産省「農林業センサス」（図1）、同「漁業センサス」（図2）



以上資料：農林水産省「農林業センサス」



資料：農林水産省「漁業センサス」

農業産出額は2年連続で増加

■ 農業産出額は2年連続で増加

平成24年（2012年）の農業産出額は、2,476億円（前年比89億円（3.7%）増）と2年連続で増加しています。内訳をみると、野菜などは減少しているものの、米が74億円（12.7%）増、畜産が41億円（3.2%）増、果実が6億円（5.3%）増などとなっています（図1）。

また、品目別の構成比をみると、1位が米（26.5%）、2位がプロイラー（19.6%）、3位が豚（10.8%）となっており、この3品目で産出額全体の半分以上を占めています（表1）。

■ 林業産出額は2年ぶりに減少

平成23年（2011年）の林業産出額は、168億円（前年比42億円（20.0%）減）と2年ぶりに減少しています。これは、木材生産の産出額が28億円（22.1%）減少したことなどによるものです（図2）。

また、品目別の構成比をみると、1位がしいたけ（生）（30.8%）、2位がすぎ（23.9%）、3位がからまつ・えぞまつ・とどまつ（13.7%）となっており、この3品目で産出額全体の3分の2以上を占めています（表2）。

■ 海面漁業・養殖業生産額は3年連続で減少

平成23年（2011年）の海面漁業・養殖業生産額は、228億円（前年比157億円（40.7%）減）と3年連続で減少しています。内訳をみると、海面養殖業が前年比87億円（88.7%）減、海面漁業が同70億円（24.4%）減となっています（図3）。

また、魚種別の生産額をみると、1位はさけ・ます類で48.0億円（前年比36.1%減）、2位はいか類で35.4億円（同5.4%増）などとなっています（表3）。

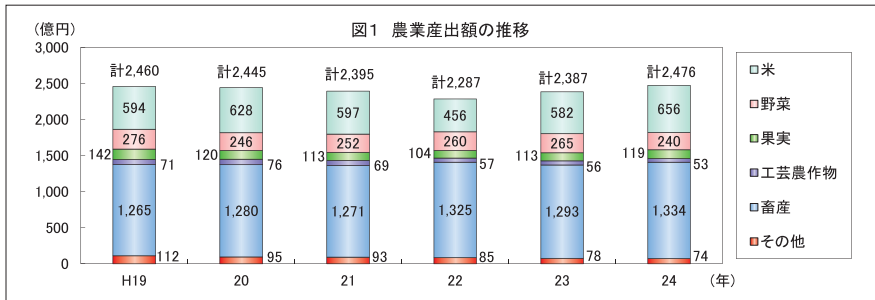


表1 農業産出額及び構成比（上位10品目）

（単位：億円、%）

順位	平成23年			平成24年		
	品目	産出額	構成比	品目	産出額	構成比
1	米	582	24.4	米	656	26.5
2	プロイラー	469	19.6	プロイラー	486	19.6
3	豚	261	10.9	豚	268	10.8
4	生乳	198	8.3	生乳	214	8.6
5	肉用牛	194	8.1	肉用牛	209	8.4
6	鶏卵	124	5.2	鶏卵	108	4.4
7	りんご	96	4.0	りんご	103	4.2
8	葉たばこ	52	2.2	葉たばこ	49	2.0
9	きゅうり	32	1.3	きゅうり	27	1.1
10	トマト	28	1.2	トマト	25	1.0

以上資料：農林水産省「生産農業所得統計」

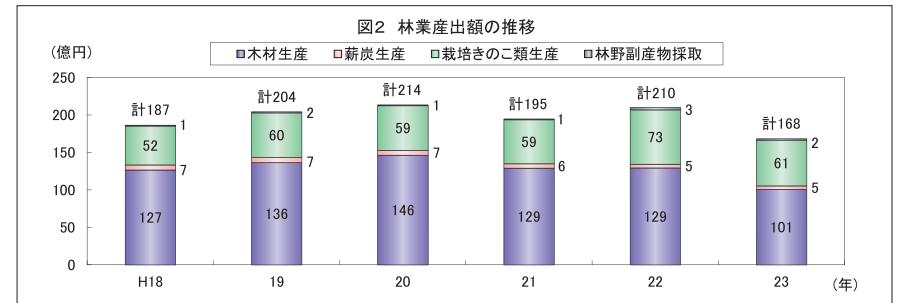


表2 産出額及び構成比

（単位：億円、%）

順位	平成22年			平成23年		
	品目	産出額	構成比	品目	産出額	構成比
1	しいたけ（生）	60.9	29.0	しいたけ（生）	51.9	30.8
2	すぎ	46.5	22.1	すぎ	40.2	23.9
3	からまつ・えぞまつ・とどまつ	32.2	15.3	からまつ・えぞまつ・とどまつ	23.0	13.7
4	あかまつ・くろまつ	14.5	6.9	あかまつ・くろまつ	9.8	5.8
5	しいたけ（乾燥）	9.0	4.3	しいたけ（乾燥）	6.9	4.1
6	まつたけ	3.4	1.6	まつたけ	1.8	1.1
7	えのきたけ	1.0	0.5	えのきたけ	1.0	0.6
8	まいたけ	0.7	0.3	まいたけ	0.6	0.4
9	なめこ	0.5	0.2	なめこ	0.5	0.3
10	ひのき	0.1	0.0	ひのき	0.4	0.2

以上資料：農林水産省「生産林業所得統計」

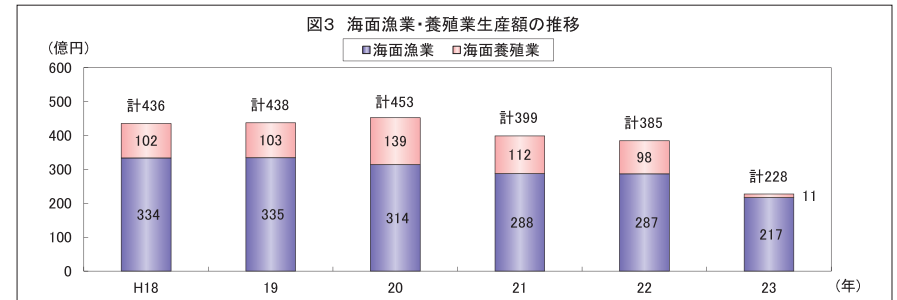


表3 生産額及び構成比

（単位：億円、%）

順位	平成22年			平成23年		
	魚種	生産額	構成比	魚種	生産額	構成比
1	さけ・ます類	75.1	19.5	さけ・ます類	48.0	21.0
2	貝類（養殖）	46.0	12.0	いか類	35.4	15.5
3	まぐろ類	38.0	9.9	まぐろ類	34.7	15.2
4	いか類	33.6	8.7	貝類	28.5	12.5
5	わかめ類（養殖）	30.4	7.9	さんま	17.4	7.6
6	貝類	27.2	7.1	たら類	15.1	6.6
7	さんま	19.9	5.2	貝類（養殖）	10.0	4.4
8	こひぶ類（養殖）	19.5	5.1	ぶり類	6.7	2.9
9	たら類	15.6	4.0	たこ類	5.8	2.5
10	うに類	13.5	3.5	かじき類	3.3	1.4

以上資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

農林水産物生産量は全国有数

■ ブロイラー、りんご、乳用牛の生産量は全国第3位

平成24年（2012年）の本県の主な農産物の生産量をみると、米は305,200トン（前年比2.6%増）、ブロイラーは108,766千羽（同14.5%増）と、いずれも2年ぶりの増加となっています（図1）。

また、平成24年の生産量の全国順位をみると、本県はブロイラー、りんご、乳用牛が3位、ピーマン、肉用牛が5位、米が10位で、前年から変動はありません（表1）。

■ 広葉樹木材（素材）及び木炭の生産量は5年ぶりの増加

平成24年（2012年）の本県の木材（素材）生産量は1,290千㎡で、2年ぶりに増加しました。樹種別の素材生産量をみると、広葉樹は5年ぶりの増加、針葉樹は2年ぶりの増加となっています（図2）。

平成24年の本県の乾しいたけの生産量は101トン（前年比53.4%減）と、3年ぶりの減少となっています。また、生しいたけは5,093トン（同14.8%減）と、2年連続の減少となっています（図3）。

本県が全国シェア第1位の木炭は、平成24年の生産量が3,466トン（前年比2.2%増）と、5年ぶりの増加となっています（図4）。

■ 海面漁業漁獲量、海面養殖収穫量ともに3年連続の減少

平成23年（2011年）の本県の海面漁業漁獲量は80,210トン（前年比41.2%減）、海面養殖収穫量は4,530トン（同91.2%減）と、いずれも3年連続で減少しています（図5）。

主な魚種別にみると、さんまは16,526トンで前年比8.3%増となっている一方、いか類は13,764トンで同4.1%減、たら類は11,232トンで同52.3%減となっています。

また、構成比の大きい上位5魚種の全国順位をみると、いずれも10位以内となっています（表2）。

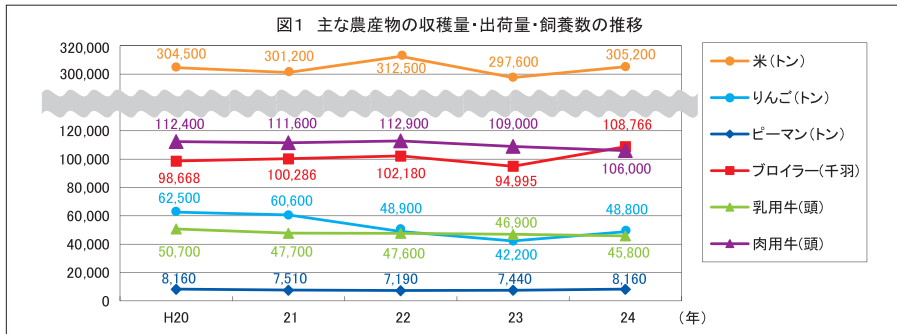
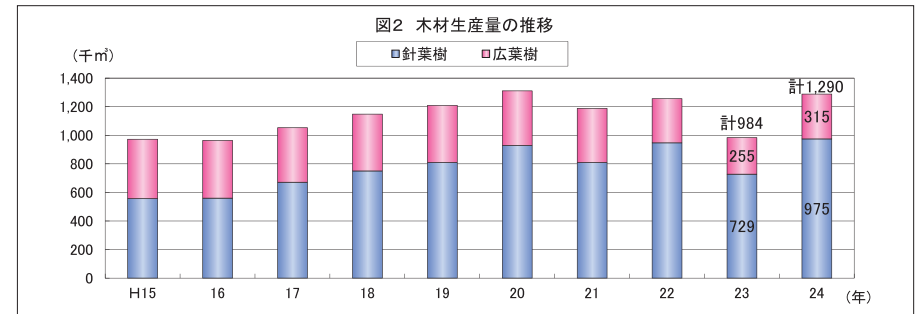


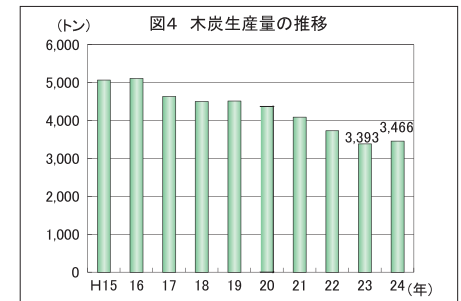
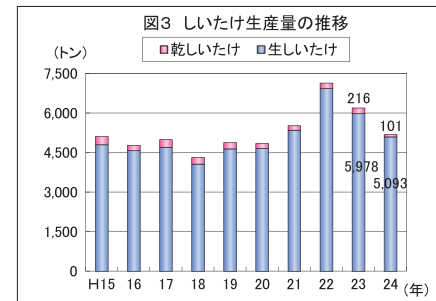
表1 主な農産物の全国シェア、順位及び収穫量・出荷量・飼養数

農産物	平成23年			平成24年		
	全国シェア(%)	全国順位	収穫量・出荷量・飼養数	全国シェア(%)	全国順位	収穫量・出荷量・飼養数
ブロイラー(千羽)	15.4	(3)	94,995	16.7	(3)	108,766
りんご(トン)	6.4	(3)	42,200	6.1	(3)	48,800
ピーマン(トン)	5.3	(5)	7,440	5.6	(5)	8,160
肉用牛(頭)	3.9	(5)	109,000	3.9	(5)	106,000
米(トン)	3.5	(10)	297,600	3.6	(10)	305,200
乳用牛(頭)	3.2	(3)	46,900	3.2	(3)	45,800

以上資料：農林水産省「作物統計」、同「畜産統計」、同「畜産物流通統計」



資料：農林水産省「木材統計」



以上資料：林野庁「特用林産物需給動態調査」

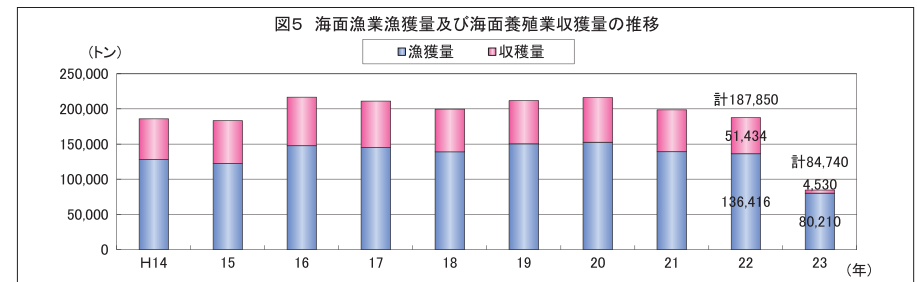


表2 魚種別漁獲量、収穫量及び構成比（上位10品目）

（単位：トン、%）

順位	魚種	平成22年			平成23年			
		漁獲量、収穫量	(順位)	構成比	漁獲量、収穫量	(順位)	構成比	
1	海藻類（養殖）	34,020	(4)	18.1	さんま	16,526	(4)	19.5
2	たら類	23,562	(2)	12.5	いか類	13,764	(5)	16.2
3	さば類	19,325	(8)	10.3	たら類	11,232	(2)	13.3
4	おきあみ類	18,561	(1)	9.9	さけ・ます類	9,201	(2)	10.9
5	さけ・ます類	18,405	(2)	9.8	ぶり類	7,638	(6)	9.0
6	貝類（養殖）	16,315	(5)	8.7	さば類	6,454	(17)	7.6
7	さんま	15,265	(4)	8.1	まぐろ類	4,595	(11)	5.4
8	いか類	14,349	(6)	7.6	貝類（養殖）	4,048	(6)	4.8
9	まぐろ類	5,450	(10)	2.9	おきあみ類	3,141	(1)	3.7
10	ぶり類	5,076	(6)	2.7	いわし類	1,622	(29)	1.9

※ 漁獲量、収穫量欄の()内数字は、全国順位である。

以上資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

高い食料自給率

■ 食料自給率は全国 5 位

本県の平成23年度（2011年度）の食料自給率は、カロリーベースで104%と、全国では北海道、秋田県、山形県、青森県に次いで5番目となっています（図1）。

また、平成14年度（2002年度）以降の食料自給率の推移をみると、全国平均が39~41%となっている一方で、本県は冷害の影響を受けた平成15年度（2003年度）を除いて100%を超えており、全国平均を大幅に上回っています（図2）。

■ 販売金額5,000万円以上の産直施設の割合が上昇

生産農家が共同で地元農産物を直接販売する産地直売施設（産直施設）のうち、農業者等が設置する有人の産直施設の施設数は、平成24年（2012年）は287施設と、前年比で11施設（4.0%）増加しています（図3）。

また、平成23年度（2011年度）の販売金額別の産直施設数では、「1,000万円~5,000万円」の施設の割合が最も高くなっていますが、前年と比べると2.8ポイント低下しています。一方で、「5,000万円~1億円」は1.5ポイント、「1億円以上」は1.0ポイントそれぞれ上昇するなど、販売金額5,000万円以上の産直施設の割合が高まる傾向にあります（図4）。

■ 給食の県産食材利用は給食事業所、学校で高い割合

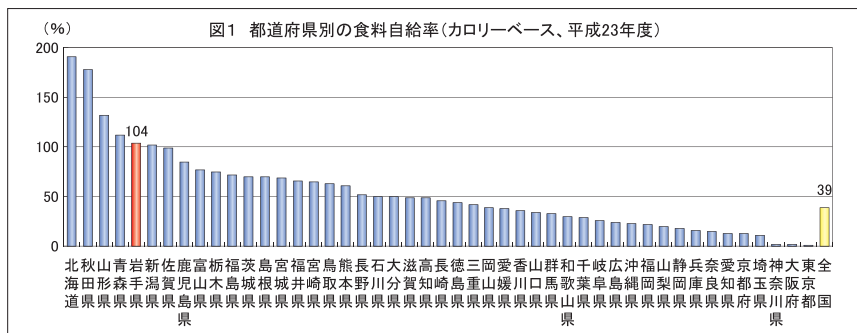
平成24年度（2012年度）の給食事業における県産食材利用割合は、重量ベースで41.4%となっています。品目別に県産食材利用割合をみると、主食が83.5%で最も高く、次いで畜・水産物が40.6%などとなっています。また、施設別では給食事業所が50.7%で最も高く、次いで学校が46.9%などとなっています（表1）。

■ グリーン・ツーリズム旅行者数は2年ぶりに増加

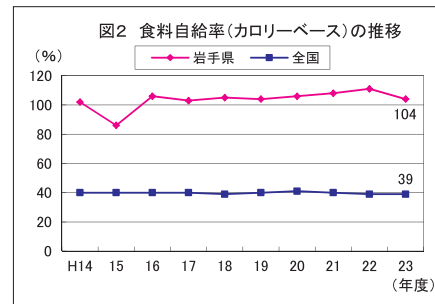
本県の平成24年度（2012年度）のグリーン・ツーリズム旅行者数（注）は430.5万人で、前年度比34.1万人（8.6%）増と、2年ぶりの増加に転じています（図5）。

また、農林漁家への民泊の状況をみると、受入人数が5,822人で前年度比1,459人（20.0%）の減少、受入延べ戸数が1,323戸で同254戸（23.8%）の増加となっています（図6）。

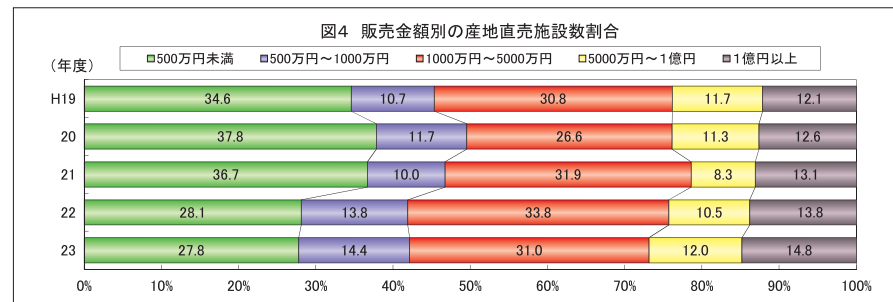
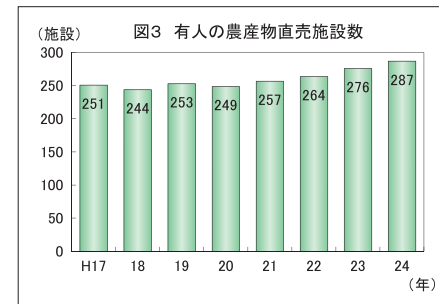
（注）農（林漁）家民宿利用・宿泊者数、観光農園利用者数、農林漁業体験施設利用者数、総合交流施設利用者数、農林漁家（農家）レストラン利用者数、市民農園利用者数の合計



※ 概算値
資料：農林水産省



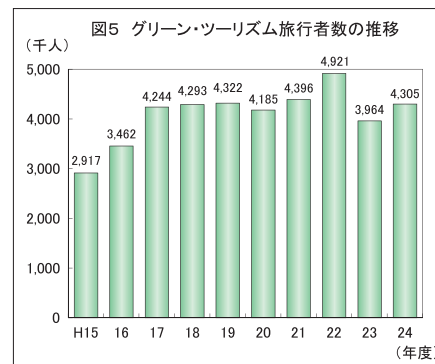
※ 概算値
資料：農林水産省（図2）、県農林水産部（図3）



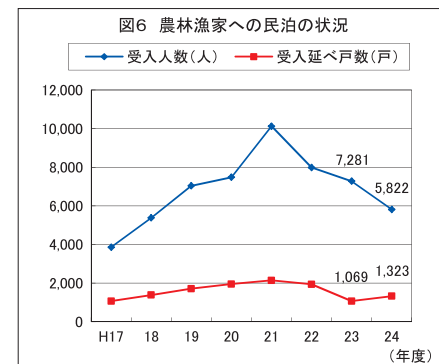
※ 調査未回答の施設を除外したもの

表1 給食事業における県産食材の利用割合（重量ベース、平成24年度）（単位：%）

品目区分	学校	保育所	社会福祉施設	公立病院	県立病院	給食事業所	合計
主食 (うち米)	84.3 (99.5)	61.5 (94.6)	85.3 (90.5)	87.6 (93.6)	87.9 (100.0)	82.5 (100.0)	83.5 (95.5)
野菜等	33.9	22.0	22.5	11.8	29.4	35.2	28.1
畜・水産物	51.8	53.9	26.7	9.1	38.1	32.0	40.6
加工品	47.7	26.0	25.2	2.0	19.6	36.8	32.6
冷凍食品	8.7	2.3	3.0	0.1	4.8	0.9	6.7
その他	41.2	7.9	0.7	4.0	0.0	0.0	9.6
合計	46.9	31.8	37.0	25.1	38.3	50.7	41.4



以上資料：県農林水産部



利用が進む木質バイオマスエネルギー

■ 7割強の人が環境に配慮した農林水産業の経営が重要と意識

平成25年（2013年）県の施策に関する県民意識調査によると、「地球温暖化防止や生態系の維持など環境に配慮した農林水産業が営まれていること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と考えている人の割合は、県計で72.3%となっています。広域振興圏別では、重要な割合が最も高いのが県央で73.7%、最も低いのが県北で70.1%となっています（図1）。

一方、満足（「満足」＋「やや満足」）と感じている人の割合は、県計で8.9%となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の31.2%を下回っています。広域振興圏別では、不満の割合が最も高いのが県北で35.4%、最も低いのが県央で27.2%となっています（図2）。

■ エコファーマーの認定件数は減少傾向

本県のエコファーマー（注）の平成24年度（2012年度）の認定件数は、6,774件（前年度比14.0%減）で、平成19年度（2007年度）をピークに減少傾向にあります（図3）。

（注）エコファーマー：平成11年7月に制定された「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する計画」を都道府県に提出して、当該導入計画が適当である旨の認定を受けた農業者（認定農業者）の愛称名。
エコファーマーになると、認定を受けた導入計画に基づき、農業改良資金（環境保全型農業導入資金）の特例措置が受けられる。

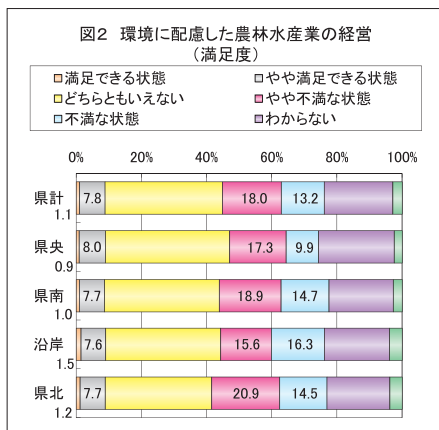
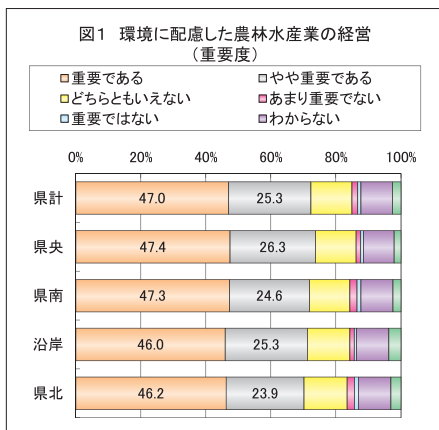
■ 利用が進む木質バイオマスエネルギー

本県では、木質バイオマスエネルギーの利用を促進しているところですが、特にチップを利用した木質バイオマスのエネルギー利用量は増加傾向にあります。平成24年度（2012年度）の使用量は前年度と比べて712トン増の4,256トンとなり、前年度と比べて20.1%の増加になっています（図4）。

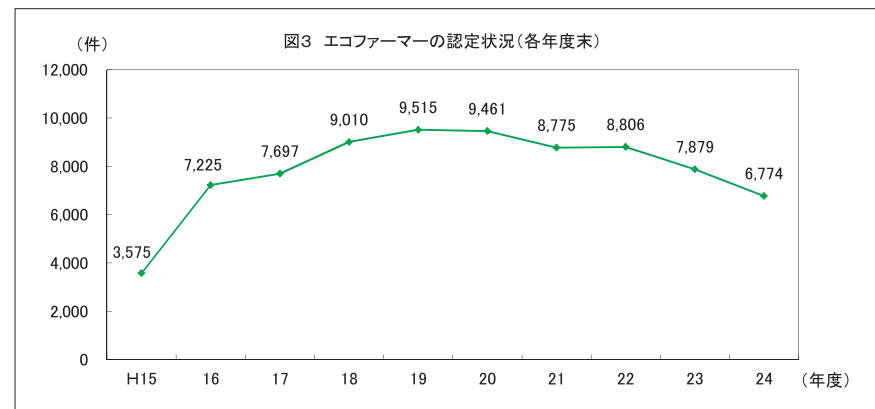
■ 松くい虫被害量は前年度と比べて増加

本県では、市町村との連携により、森林病害虫防除対策を推進していますが、平成24年度（2012年度）における民有林の松くい虫（注）被害量は42,075㎡で、前年度と比べて3,182㎡の増加となっています（図5）。

（注）松くい虫：松の枯死の原因となる線虫類を運ぶ虫



資料：県政策地域部「平成25年県の施策に関する県民意識調査」



資料：農林水産省「エコファーマーの認定状況について」

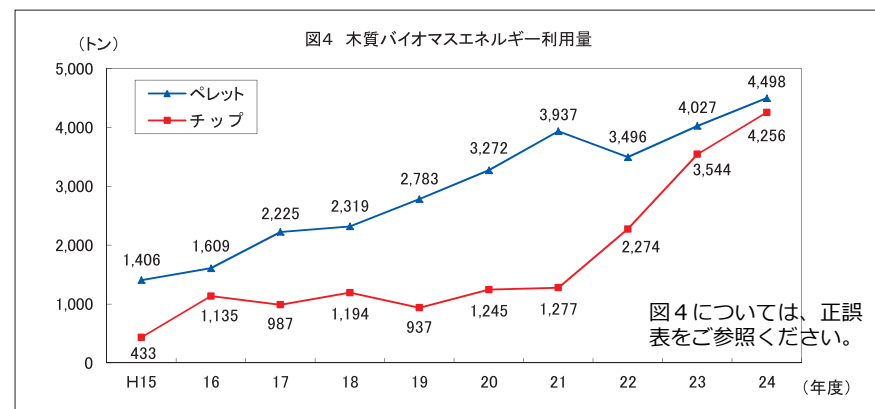
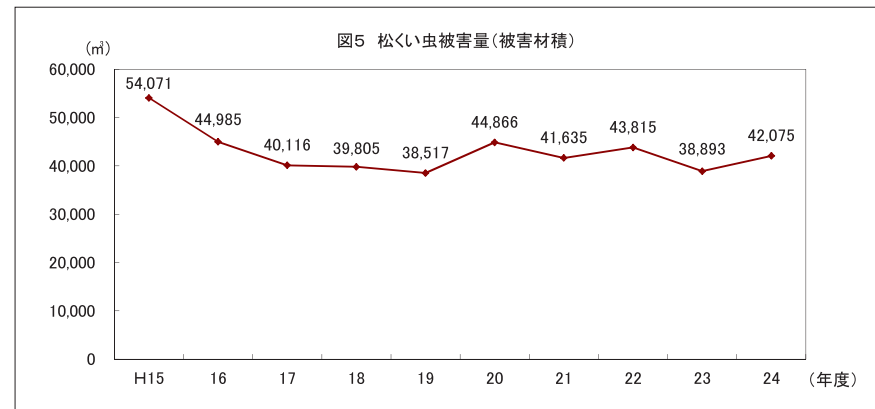


図4については、正誤表をご参照ください。



※ 民有林
以上資料：県農林水産部